其由縁 鄙廼俤

初編

一筆庵主人作
二世豊国画

仙化の年 歳在
丁未新春

泉亀

仙鶴堂寿梓

一華庵主人作

一陽齋豐國画

弘化四丁未歳

仙翁老寿梓

上之巻

下之巻

其由縁

上卅

鄙西の俤

弘化四丁未春

發市

一筆庵主人作

初編　二冊

一陽齋豊國畫

新吾堂藏

晉書に白王濟い馬に乘の癖あり和嶠い錢を弄ふの癖あり杜預ハ左傳を讀の癖あり王福時い兒を誉る癖あり黄魯直ハ香を好む癖あり李渉ハ竹を愛する癖ありと見えたり素癖ハ嗜好むの病なり人毎ふしとつれ癖いなるこそ我ゆゑ世業の道と慈鎮も歌道を好の癖をみづから歌ふよまれたり然れど上戸ハ酒の癖下戸ハ辨の癖あれども癖の中ハ亦一癖の種々あり不任従来恵の癖あり常ハ嬾隨癖あり出来ぬ戯作をあぢ付る癖あり其癖慾ざる錢を欲ぐハ癖あり酒ハ醉よくえぶうとるる癖もあり甘味のものを喰ふ飽食癖あり夫のまるでいぐざる世話をもく癖あり年中損をまる癖あり恁る癖の兄たる者馬ゑうまべいふせ爰ハ仙鶴堂ハ商賣を励癖あり予ハ癖を知て戯作を需紫媛ハ由縁の俤と鄙の賤姿ハ色幼児ハ勧善懲悪の教諭とまえ一端とも是いぐざるハ世話の癖ぐらべや

弘化未の新春

一筆芽主人誌

多仲廣門娘巻絹

今もとそ
やゆれぬ
とゆ
あをきさ
ゆきの
たちらよ
那
巻絹の弟
滝弥太

○あるかたのふ
ひとりの女めのあり
その名を白女とよび
ものしやうちゑ
めくむすめあるゆゑ
をつねくをしへ子
とるべきをひよこ
のものふれとるく
をんるのたまこと
るべきことををしへさとしまこと
をりくいさまぐのものごとを
とをしきるせてつひふ忠孝のこころ
をのつをしへけるされべのろ
こゝろの世のさろせへしやく
とふ人のつまさちがいことふの
人八宮女のためふ女誡とふのの
七章をつくそこうどうたてまつる
又さうの世のちんたくのつまてへと

左ゑ ひとあり ろ紀あり
とふろ紀女ありてきあり
きとろろもとをたづ
ろしめそなべとへ
さられめ しことを
あめふろ考よ
りをとそそのの
ろ考をきろ
きろとろもはを
をきろきろれみ
ちくしてをき
ろ紀めあ
ろろべて
よくく
きてはけ
て女れ
かるふる
きひある
とをりの
る人も
きるる

ふ人八女孝経とふ書をつくりてこゝろざ
そをきろろのまを孝のこゝろををしへをとり
るのりのれいまろとあろとや
つくとろとをしやまひめ
つるひのあるぐとあのれを
をのかハていあつをまのり
ひのあるひをたつるま
ざれがをきよとふのてさう
ることをッあり又ふあさ
ぐハざれがさろてけるきハさる
のんろんれがさろまろとふ
けれハさるたけんれがさろぬま
ものろろあれがさるつるたやまひ
あれがさてろろりるろゆの
父母ふ考ざれがさるハ
好孝をまそそのつを酉
刑ふあれりきてくを
とろくあつとのふまるハ
とろくをとろるめるざろと
まをまのがのふをとるのとひわ
かるるをぞをさろるくとるりむく
よりやんをのあろるゑハての女と
ろるるくて人ふたろとひうやをろるくとをのこゝ
まをるるるるぞをされとものとるひかくをを
とのこゝろのわがれこるを名をのこをーめの世ふあげ
かるこゝろくるくあむ死とるハそれふつけてよんべ

右ゑ

めがちをきろ
せんとそあまきあ
るまとばるるろ
べて考ろんん
たををを
をるめろ

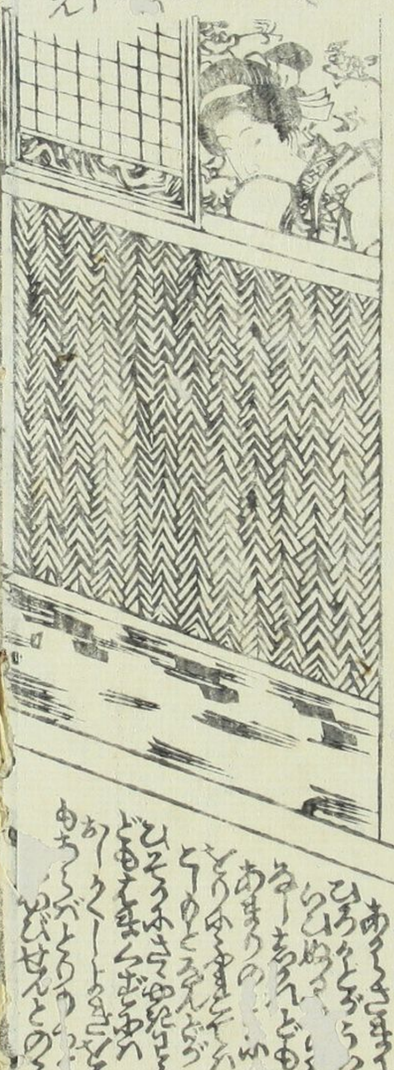
△[illegible]のかたちの
たくしめ
○こゝにそのよのこと
[illegible]ありけん一式[illegible]
多仲[illegible]門[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]女の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
門[illegible]
[illegible]
世の人[illegible]大[illegible]
[illegible]
[illegible]

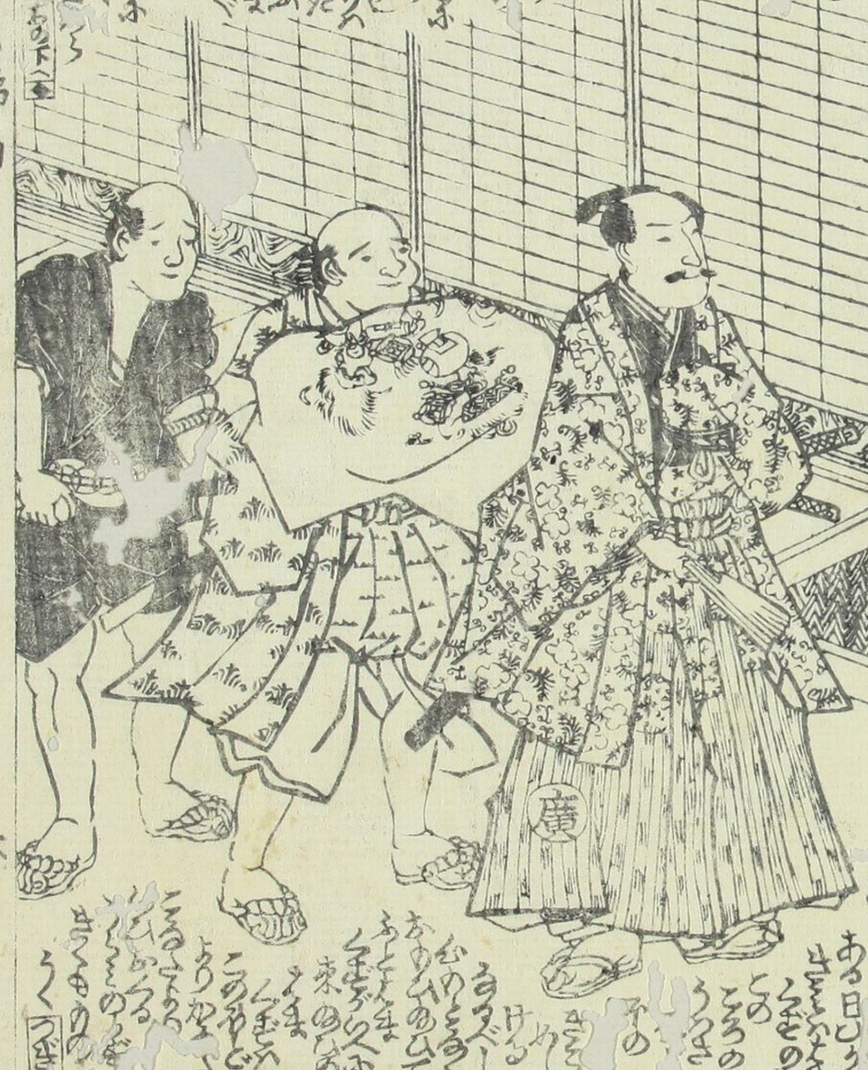
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

圖下へ

つゞく

廣
袖



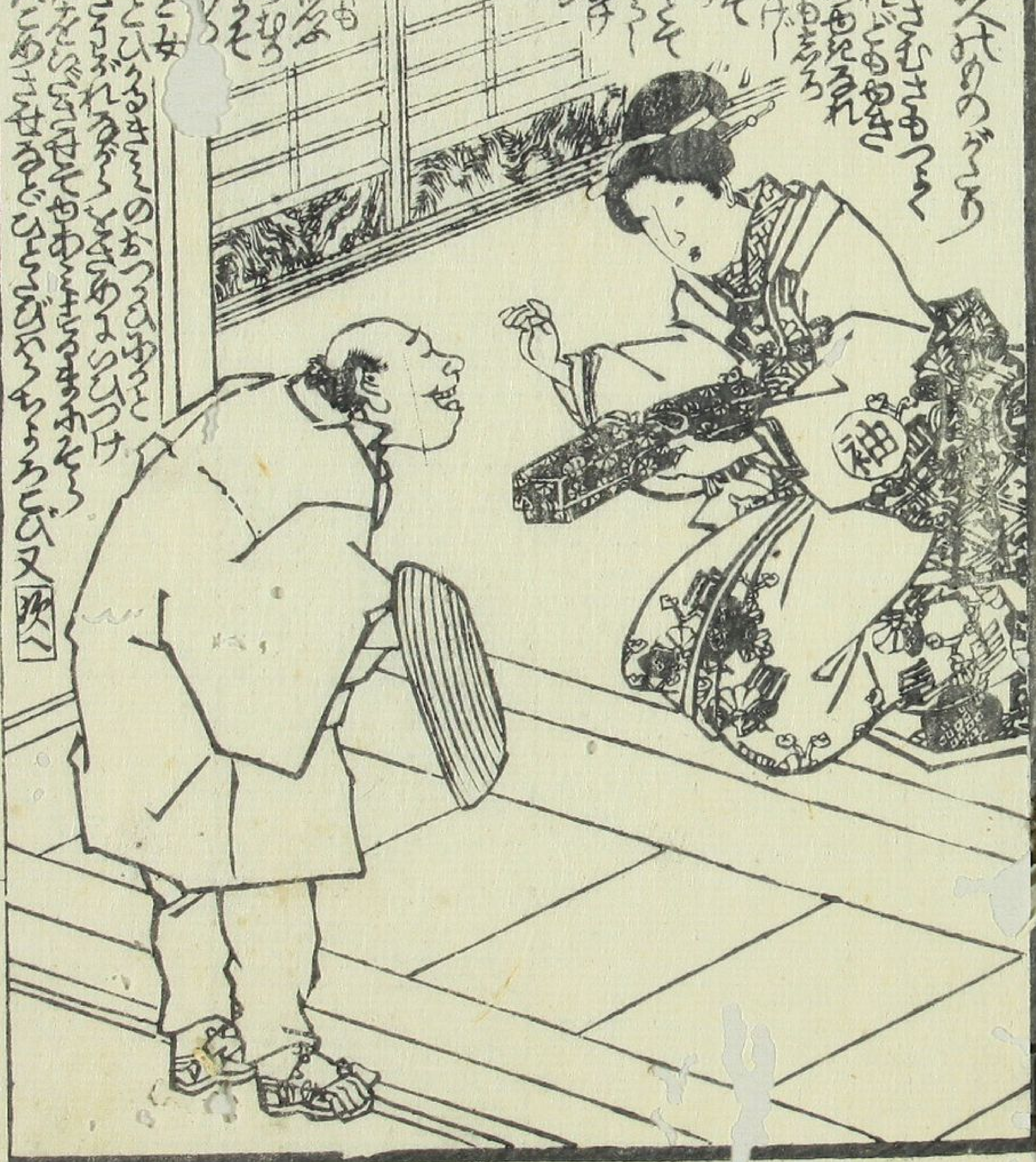


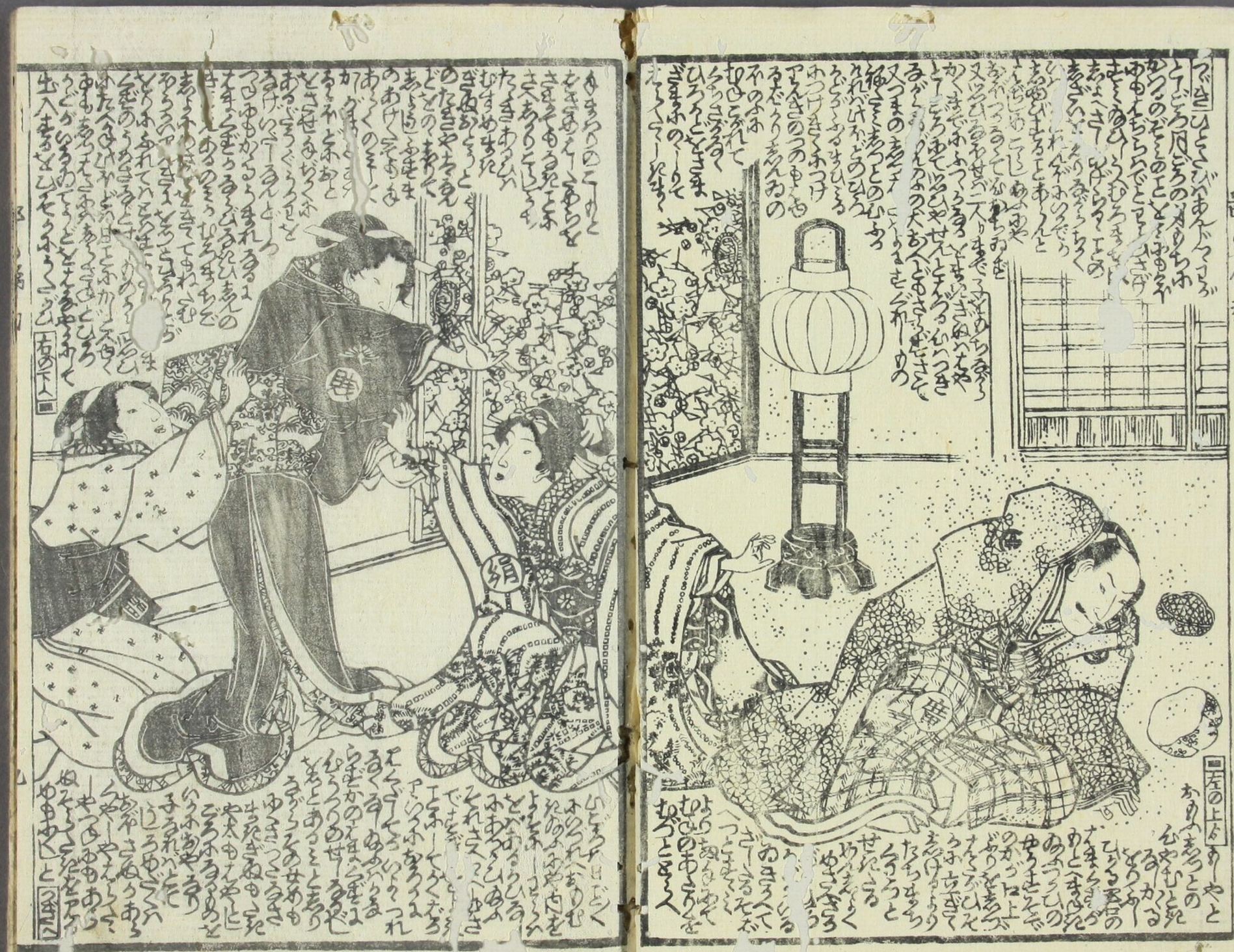
つゞき [illegible]

△ [illegible]

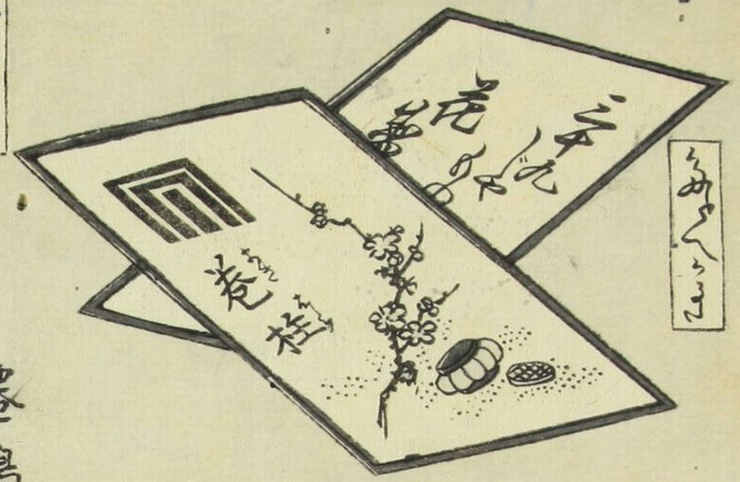
○ [illegible]

又次へ




左の上分
右の下人

豐國画一筆莽作
廣門



一夢庵主人作
一陽斎豊国画

初編下冊

九曜文庫

優鶴堂
大傳馬町二丁目
鶴屋喜右衛門梓

○あづまえびすのえもんぼのよふ和さ牛さしひふえず
あんべの和ゆくふ
りそのめ
ろいく
ろ
ろ
ろ

上の巻ゟつゞき
左の下へ
左の上へ

二人りの子どもを
抱まくらをさ
左の下へ

△六条の御ぐし

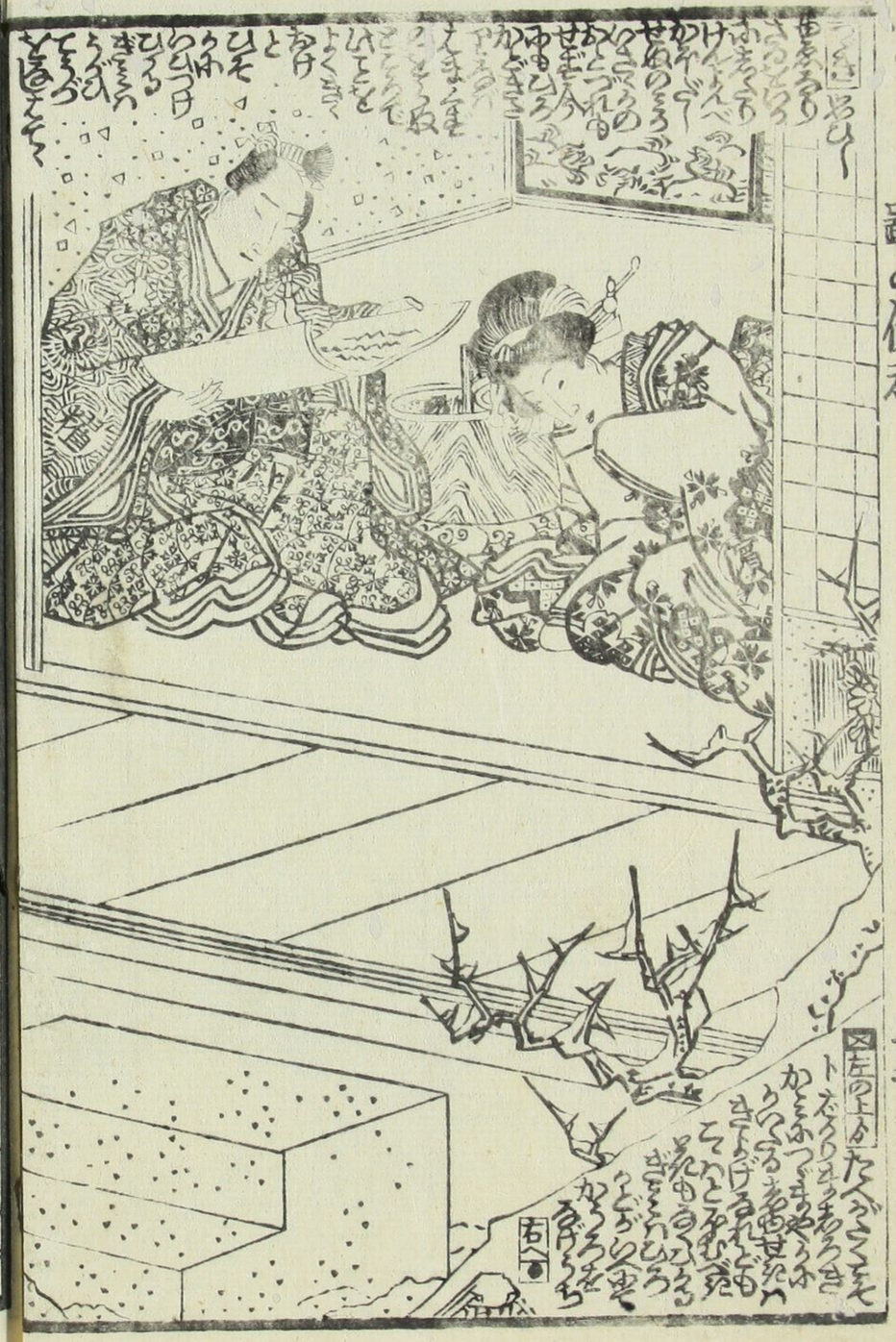
○さてもこのごろふつりてあまとるくらむきうもまた宮のくしあとまの つひとえどころ又ひろうのろひけんぐ ひのころふりそやこそもそ きこのふさしくるりけれ ふりたあ　四たとまこうく ふ宮のまえのでこつのり けれどもひろうぎこいとひ うくたまくもものまをひへ ゆのひろつ九名仲ひろ ひをつどいまやきこる とまちのへどさくふ そのあとこれるくもたハ きこりふふつのり うぎき家もとやこ ひくまふひろうぎこハ やくこつぎこのまをひろれが きちかこぎこひるやこうぎ まどけまくうくえともの うくいまるぬなこをこの いとくまぎこうるもろこと かりへど又やこくてひろ かどまちやこけこ

左のよう

そのてどめろごすの さろのどくふそれが よくまれくきこ也 もちよがれひろこと のつまちつたふ心 きこれてつるろこ めくろくくるり くびゆきのやくえ さくよりこりて ひどもいれども ひとりぎこされが そあくこまれむろ まちのごまよ さへまあびよく ろりるのりで うれふかこり ゆふもさい アこれあ也と ふいひこぐう こぬくれ つくてみこ ぎころ ふやよふ まくぎこさ いりろ またへ

つらゆやくこそ夜なあ一ゆまの ゆこうまくらきこで ゆこのこあたをまぐめ ゆりしわれふこそ ぎこりりこをろく そこの香りてこ つの四をのをろ まくめくまわ まちひろうぎこ ひれをたゆひ又ゆくこ ぎまりて可こりひふ ぎまりゆひまぎ ひのまぎゆ ゆきりぬ ゆきりまりの てぐくとりく ようぶあぶその やりふひつけて ひろかどとよび よれとひろひと ゆこたのまきこ かゆこひこと るろ人ゆたそり これふむろひこける ひろうらゆたま ふまふいらひと

[illegible]



つゞき
右の下へ
左の上より
袖

△ろうまんひろかどぶ中たの
めがうをそう冬七さて

○さてもろうまんひろかどつまの
まつたこぶめ、けやそ、ろめとけすめそ、ひ
又あとうとのくきやたぶるこぶ、ぶろうのかい
たろうとんろさんもいとらくろうくるふとぶ
一日もんぶ、ろんまろうんたちりどこせ
子どものとろとやまあんとんまーゐ
まいいふもさーるりかこうこのりやと
けふちひろるかがきこうそまくく
つさまぐうのそうあそこうそろを
つせーそのかひふやゆ山日ゆうやくまづ
まりてよんべのくまりろひーりいふぞ
えろうふそろあちつぶそやふーどぶころろく
絵むりけりこふれくうそひろうどもまそーいそろ
やぶまりぬろのまづたちつひぐどろ、ぶそきふく
たーこまくふけのつまゆあわれどもさま
ダふどーこまろそこれ、れがさまぞふあ、ぐま
ゆいふりもそーるまでものめけりぎふりと
ありふうりかくうこれやとけをたのゆるうぐー
と西の日のそーぐうくそんやこれけまいひろ
かどとゆあべきこぶぞそでのぶまうりあそせー
ひのとふもそれけさそでのかへうん
やりーふこのへーどかとりまぶれてうぶ
ありひんぶそーりひろうきこ
よりちあぶとありーふ
そのあんひうんをせざひろべ

左の上へ

てうんいかきろぐ
ゆふちうぐ
ひろうぶこ
ぬんうんあく
ふんうんあく
あくくこまづ
ん、ぶ風よの
ゆさへめどり
ゆのこまれこと
ろうがんまうぶぞこる
とおろうあっともうう
みうかさまりわあひと
のこまひてそのこの
あうぶぶぶがみぶうー

どゆちうこきこのあんまろ
ぶそろうぶらんゆたろう
ぐーこーとろひころふ
それをひぐんれまづんさもや
まうまろけれがこうひんあたくる
まわくそのんとまろくこのくまん
ぶるんぐーめこーのこぶもへ
あこーろうゆくうのわこうせよ
とうひつけて又こもい
ゆまろうこさぶたーこ
きくうのけふろるそ
たひをあびせんうこ
やをきあろいこーふ
うくうらうしてひたつこうひ
こそくまぐくまよこたち
らぶろのうりりのこのそぶーれ
どゆ六ぶ、ろんこうころこんや
わのこくふちうかりけうまのびの
めんようたるぐこゆあそゆぶうてんま
んぶぞうこをまひのプそそふ月をようそて
ヲとくこあこうぶこそここうて戸をあるる
せこれがこそのかるうころやもーこうち
ふりうそのうはよべこりのこのまうこのと
ゆのぐこりてこんうぶそうゆをこうぶまこ
ひうるぎこーみけーこきいりふわしこ
こひけれぶ、でのかまぶうここてふゆう
こんまんぶぎこまいゆこぶあこりあやゆここうろ
こちあーきここてゆまふこりてこうこれば

右の下へ

たこぶのうんこそおむうひ
ありふゆこここうく
ありうぶこ
ひこと夜をあくこ
こそ
ゆこれ
ふうまき
ひぶのひ
こりりゆ
ゆうーれ
ぬしのまゆ
らぶまうぐ
つこへよこ
のくまうし
おこてこうり
ゆあおこれふ
けこのれふこ
ゆてこれつころ
ゆこまんのぐう
ゆんーまづ
こんこぎここの

つぎへ

婦美車田舍草帋　全一冊　一筆菴主人作　香蝶樓豊國画

毛剃九右衛門環海異聞　訛織博多譚　初編　一筆菴主人作　二帙　一陽齋豊國画

源氏百人一首宝文章　女用文入　中本　全

千鶴百人一首姫小松　大本　全

東錦繪地本屋　江戸大傳馬町三丁目　鶴屋喜右衛門

一筆菴作　豊國画

つゞき　あらまどろいそたさんてっこをむすんでうとなのしゝてっくしいこもあらっかとあのくいっくめをさでめさるうれかくそたちらぬるとかくそふたのたそてうとそたちっくふあげいきどいっちたやしそたくとのうれしとのうれっちたや日もれ子どもをのりのものくのうろうらせてえんさそちろ二てうるくてうきらでーゆそどちさどそ門をのでちゆっぢかるうまとしふあちづめがかくくふいろすこそもるくうちあめりってちちんをさきふたーしてやくるどふさや一ゝ　ちち　余もたるれーころあのくふっしやうこのうとさろともるくアろうれがめをさどめろゆくのとぎそもたやろーしーふこれがさりあれいれかれころさいひのホう火のきゆるそちせら消ーくそがれるれがこれそそもくもっころっぎそあっらぎろうるろーやとけどさてくとアろうとあらうえるろーやと人のあっふあっねどたっこふっくまくまるれーちゆのやっくのたるまっくく。

○かの水ぎゑのかくくちぎそまろびやそくもくっくくるっくちゆさのやっくえたっぐりゆきける

○これよっ　ぎえのものぐっいこうんふくっくまっそっそこっぢのそっくっぐくゆきいロ求っるれいめそくくく

迷岐

公道人情兩是非
若依公道人情欠
人情公道最難為
順了人情公道虧

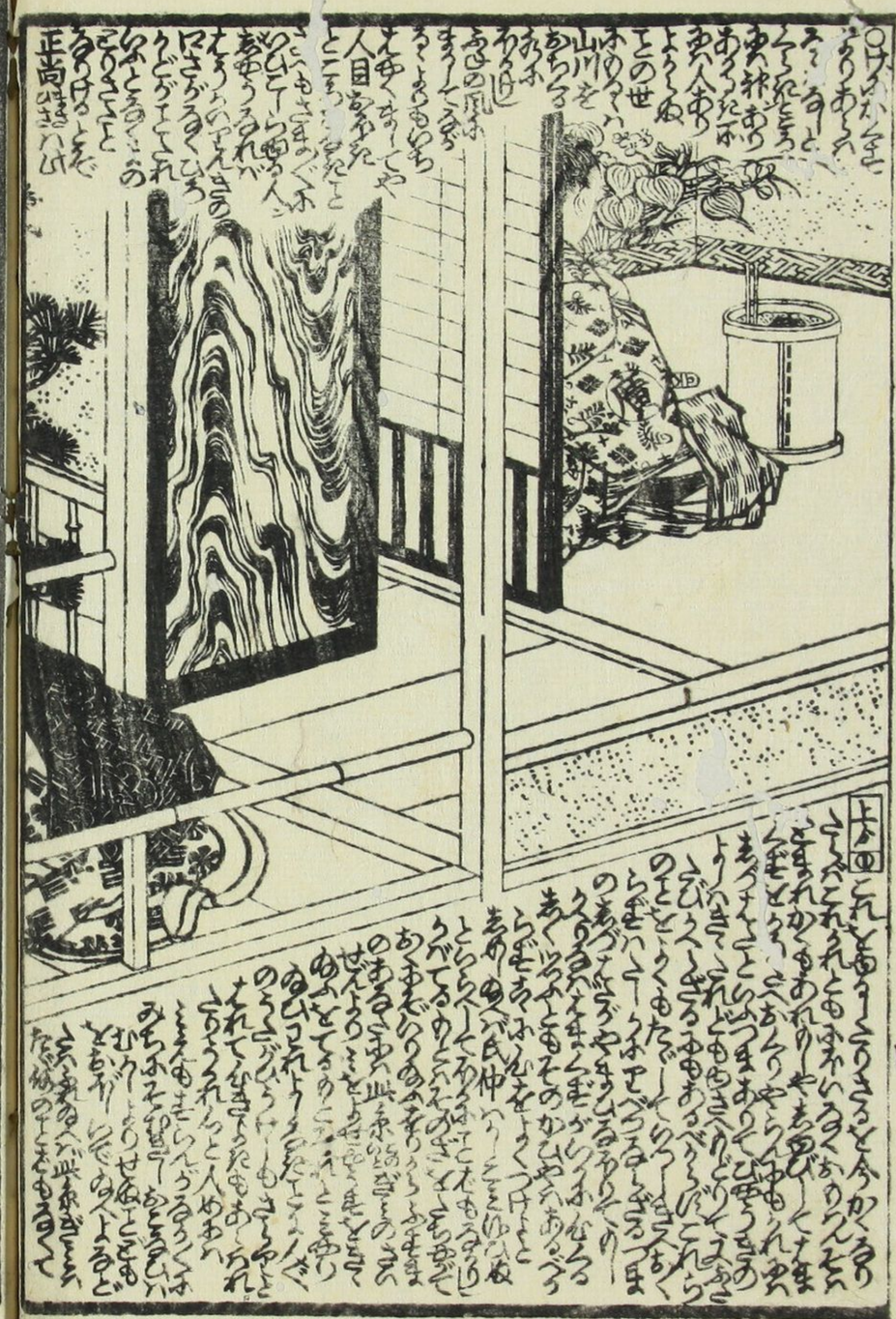
彼墨翟が岐道ふうち泣涕しも善悪邪正のこゝろ亦此支を想へばゝり従来善い人の欲する所悪い人の憎む処誰ゝ是非を分とざらん只是非義の情不縁の欲ふ迷ふが故ふ此岐道ふ惑ふのゝ克其道理を通暁境ふ至るハ最稀るゝ然れバ童蒙児女の為ふ好道理とも諭んとそ果敢るゝ策子譚ふ情態をハて善ふ薦め悪ゝ懲し他を誡め已ゝ警る一端ともるん と初輯ふ嗣て二編の稿を脱るのゝ

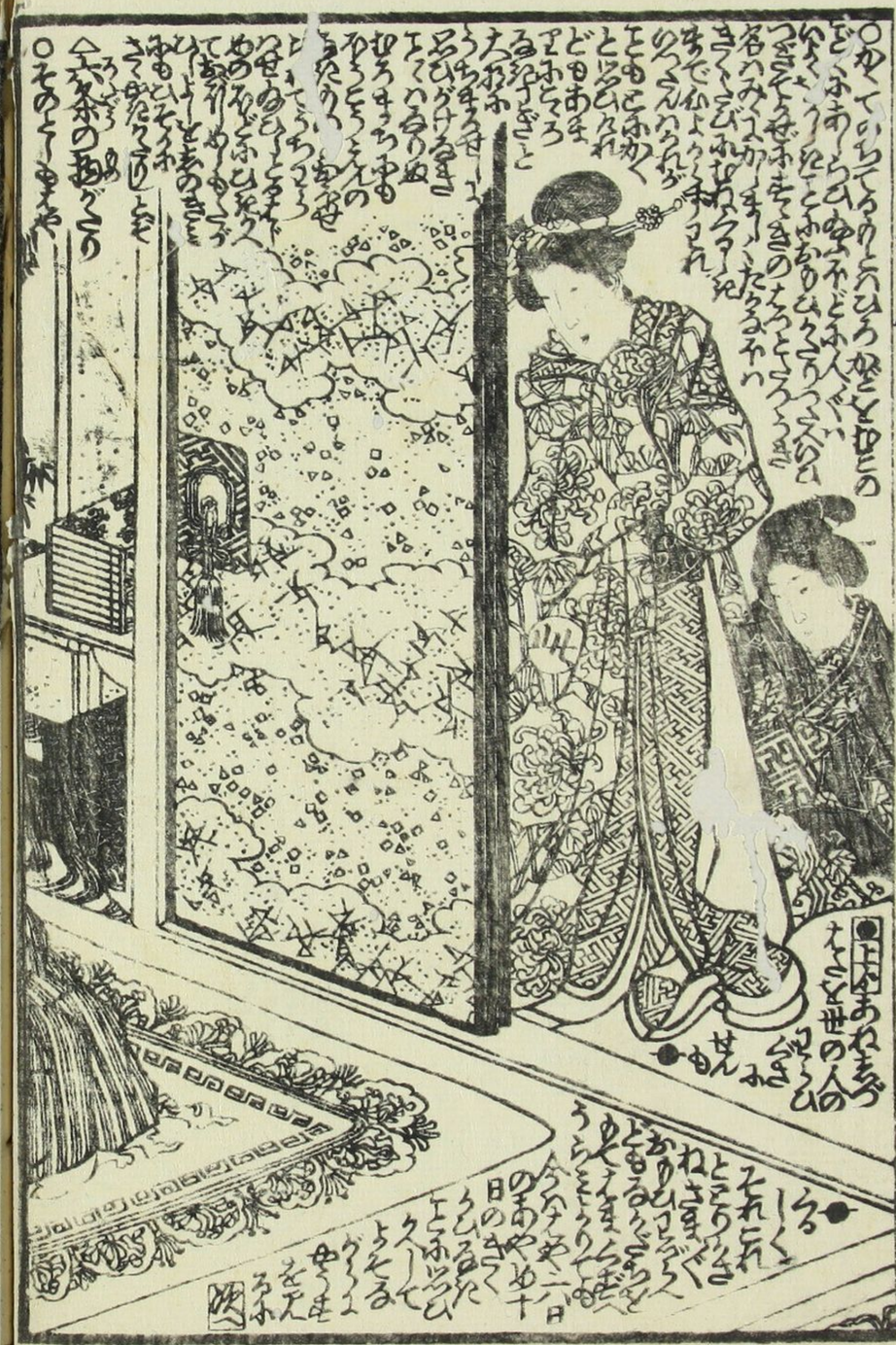
弘化丁未新春　一筆菴主人誌

濱葛初て室町の御所へ出仕

湯

丼





つゞき さて…ここそやさしくけてきたなくいへそれそりぬれ
ひきてちらちらとありくるありさまとひろかどいふ
とかくしてあるちつゞくとかくそこそとゞろろれし人そ
おそろつらぬれるゝるあまりききとおのへども
へいさのさとかきまさしきとさとのとちのおもわく
又かまいまいきいきへひらわらおのひろきらんとおも
へびえふとすくらしろめふすへおかくわへでてろのまて
まうでてへふゆそてのそぎにあさくとさてのへけつふ
ありたくいおられけふらうぶしてゐくりしげあいくく
うつとあまきあまりさらぬゆも世きのふりし日ふ六てう
よりのつひおりて火とりのないをあひせてり
けふもそのところらぎにしておめくとらでむらせんれ
のとりおわりとひとおへぞふせとの火とりをとるそ
だめくとりてひろかどのうしろより名きめくも
るくうちつけれるゆゑそ縁のききの火くでけとぶて
いろのふわえつきちらすひふむすれわきとやまま
がかたえりとどふはまろくるりけれべにてゆと
どもへころてさておがらことさまにさぎめるを
まづてさいさりけるくせらくとうちつてらひ
ところよけふるそゝおそてゐさりひろどれたゞおきれ
えそてきれの日も六でうよりむらへのつひきそりけ
とりかゝるゆらさまひありけつふふきさびけのきさ
おおすさまるつまのおもくびともそろそそれらの
めのくけのござるれいとてあまりのゆもえくしさのふ
そもやらいるたくりありてかだうりちてろみだれ
しかとたんそくのやらうきさめらくこの日も六そう
へへつうひをめてくるのおのむえをらひおやり
つひふゆうきそでるりふける

一筆菴作
豊國画

○作者曰けふのめぐりは初へんの八丁目一式ひろうどうど
中江のめぐりとひろくぐりとおるなどとされども下
めへ次んさのたたらく臣なきふ火とりのなさをおひせし
るそれよりまづちょやまひまやそのちきうつく
かゝるふるさとうおか家ふさへにひおしよしとひへにこと
たりぬべくれどもゆゑそひけくるとひろどのおわれぬ
ひとて新たよろすことよりとたへちつなるる日より
るうぐさめて又をひもをおひせられしことよるめ家そのおも
むたへおるなれどもとてろぎし次たゞひおりのめゑふ
てふあけりされぶびとい初へんの十七丁のうら一式
よの世きへきづけさとおりのおもらんとかぶてりの本ふ入る
べれとも又つて此のめぐりはさしなよへべきとをらきき
めくしつあとゆそその、とのお人はあらくのとよおりなど
おくれてひふとひとをやそれおそのひとを初へんに
かきをもふちれ丸家よしありしとのくさくなきんぶ
さし申家くされどもそのことふゆきてかくる世家なよう
おあるとるりとられねばさらしかしくされとこの会話ふ
あるねは又くの入して事いうしるれはよく
あるうてようさのおせはせんどこんきろある
べくくん此方の後暑子よろしくこれとされゆへ

弘化四丁未歳新版目録

婦美車田舎草帋（ふみくるまゐなかさうし） 全一冊 一筆菴主人作 香蝶楼豊國画

毛剃九右衛門（けぞりくゑもん） 環海異聞（くわんかいいぶん） 誂織博多譚（あつらへおりはかたものがたり） 初編 二帙 一筆葊主人作 一陽斎豊國画

源氏百人一首宝文章（げんじひやくにんいつしゆたからぶんしやう） 女用文入 中本 全

千鶴百人一首姫小松（せんくわくひやくにんいつしゆひめこまつ） 大本 全

東都錦絵地本合板

大伝馬町二丁目 鶴屋喜右衛門

神田鍛冶町二丁目 太田屋佐吉

英紫郎の俤 二編 下冊

一筆齋主人作 弘化四丁未秋孟冬

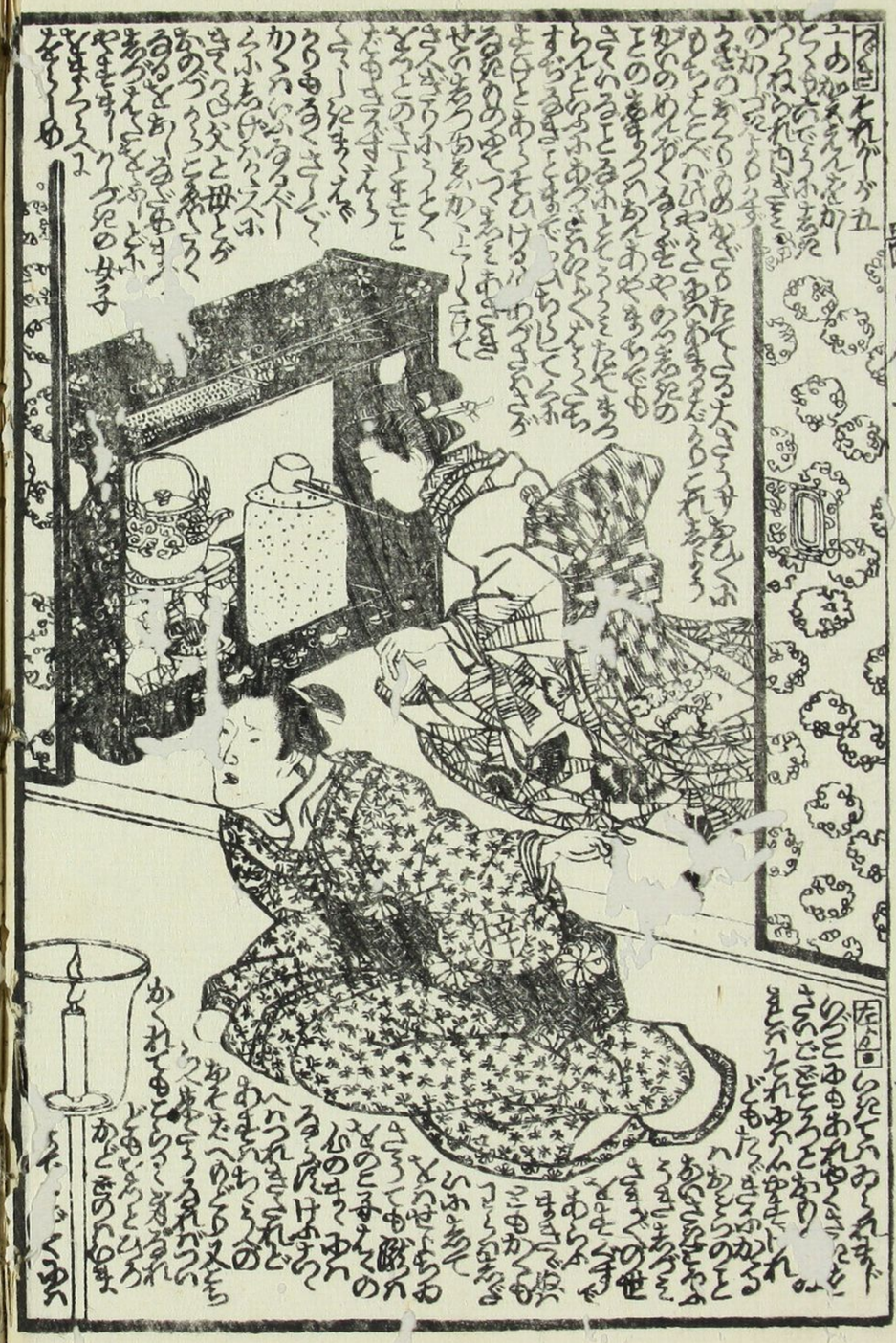
一陽齋豊国画 大伝馬町 仙屋彦作

早稲田文庫

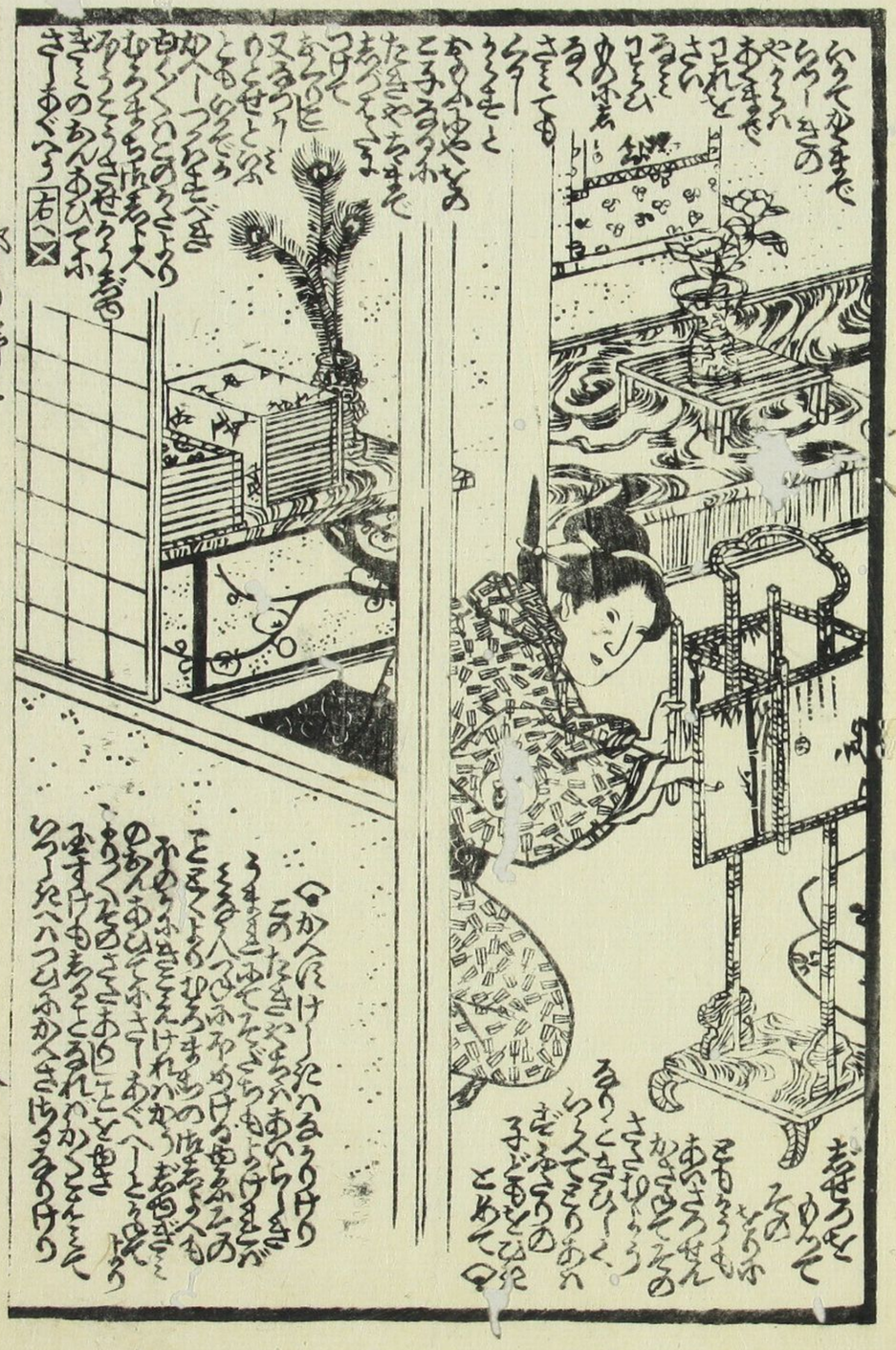
明編下の美續

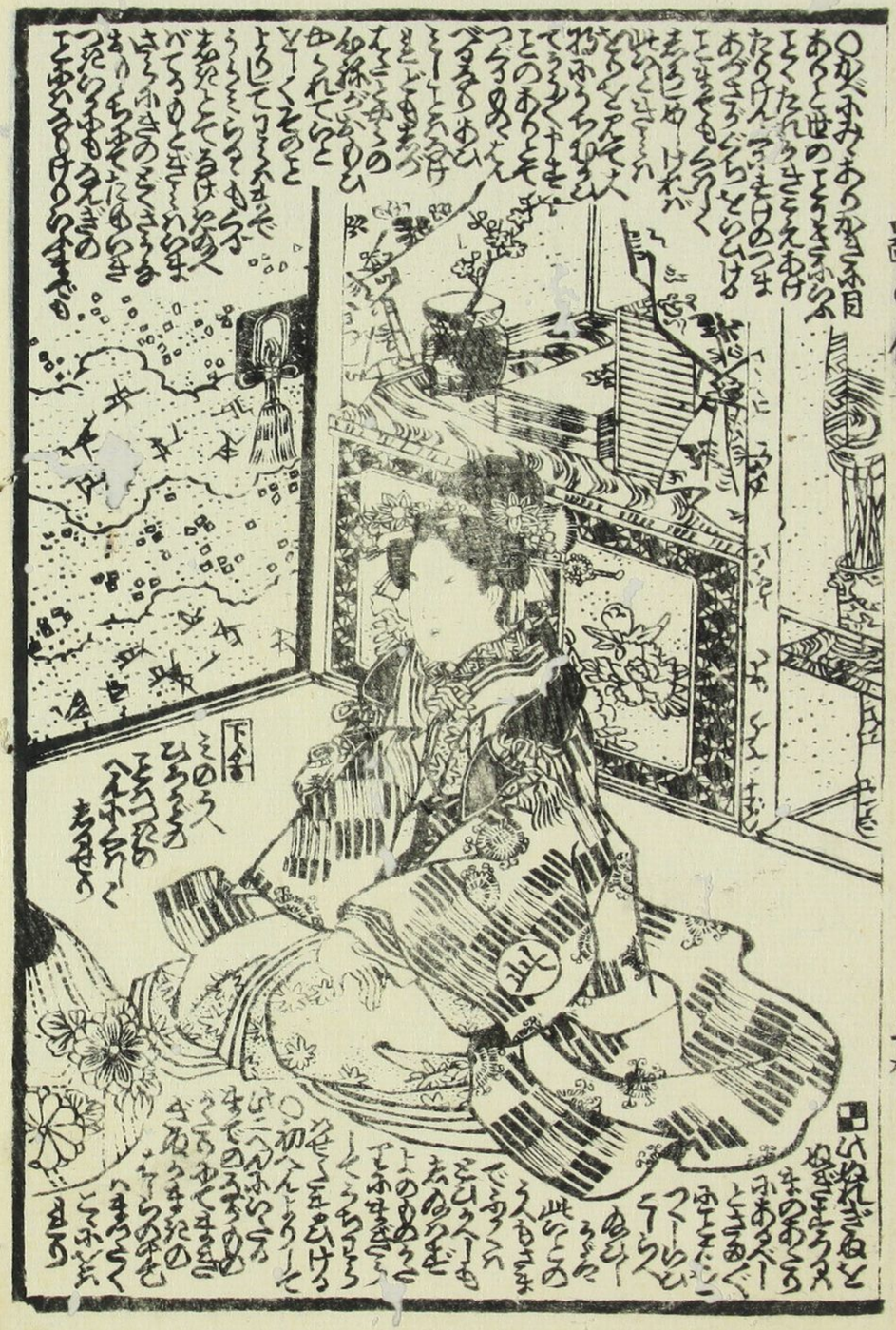
湯佐の舘にめぐり

さそもあさあやうさゆそたちろ
まをよろつ見もしの女ものめ
それとまかーとつくろいせーひろ
まのもなるひふまづとさぶあまむ
ぶんとことものぐさんひゅうぶゆて
まきうろくまべてのてろうどもひば
まくまろーしまきあのふびぐう
ぐんくあのまずまざんまくよ
むろものがゆたきろめ早とろる
むろろゆそ丞きけまろ武今
のやきろまろくあそーとまろ
そろくらおりそのくふふ屋げ
がかろあれのきとえふまち
まろけるゆどもいくくこてう
のみろりのをむくいれてまづ
たさあやとなかのざーたふ
らざるひろかとろふあるる
れかーづたぬはそよさた
ふもまるーぐでくけは
まづそさろろときまろの
つるのさまろふさろまろら
きちへゆくもまとゆふ
きけるどもけるふそ母の
あづさろれーさのあまろそ
けくきまろきのどく



火之用心
十返舎一九





一陽齋豐國画一筆莽主人戯作

其由縁鄙俤第三編

大傳馬町二丁目
地本屋
萬屋喜右衛門

備書
谷金川

迎慶
招福
めぐ紙

勧善懲惡

其紫鄙迺俤

初篇二篇出板

一筆莽主人作
一陽齋豐國画

第三編ハ梅ゑとふ春ゑ什麼此冊子ハ古くより伝る源氏物語ゑ或ハ
うゑ近十帖ゑ隠抄ゑ等ゑ所ゑ為ゑ一ゑ教ゑ児女童蒙の為ゑ忠孝貞節の
教ゑとゑ為ゑ べき ゑ事ゑ を ゑ旨ゑ と ゑ て ゑ 身ゑ の ゑ ゑ ゑ